

安全・安心なインプラント

歯科医療従事者のための

インプラント
安心基準マネジャー

認定基本 テキスト

【監修】

河津 寛

特定非営利活動法人 歯科医療情報推進機構

刊行に寄せて

インプラント治療については、すでに歯科医療機関の2割がこの治療法を実施するなど、わが国の歯科医療の中に定着してきました。今後、インプラント治療は一層普及が進み、わが国歯科医療の重要な一翼を担うことが予想されます。

一方、深刻な院内感染が生じかねないなどインプラント治療をめぐる医療事故や不適切な取り扱い事例も報道されています。そのような医療事故や不適切事例がさらに増えれば、インプラント治療の普及に水を差すだけではなく、国民の歯科医療に関する安全・安心にも疑念を生じさせかねません。インプラント治療には、その普及と相まって、ますます厳しく医療の質の向上が問われる時代となるでしょう。

インプラント治療の質を確保するためには、治療の質そのものを向上させる取り組みとともに、医療スタッフのレベルアップと感染防止対策など医療環境の改善、さらに患者・サービス利用者に正確で信頼できる情報が提供される枠組みを構築していくことが不可欠となります。

こうした時代の要請に応じていくためには、インプラント治療を行う歯科医療機関を対象とした公平公正な第三者評価の実施が求められます。医科では病院機能を評価する第三者機関が1995(平成7)年に設置され、2011年1月現在、2,535の病院が評価・認定を受けています。

このような観点から考えますと、NPO法人歯科医療情報推進機構がこのたび、安全・安心なインプラント治療の確保に関するテキストを編纂し、研修を実施することは極めて意義深いことと考えます。こうした活動が契機となり、歯科医療界に第三者評価推進の機運がますます醸成され、ひいては、わが国の歯科医療の健全な発展に繋がっていくことを期待してやみません。

厚生労働省大臣官房審議官
(医療保険、医政、医療・介護連携担当)

唐澤 剛

目次

刊行に寄せて	3
目次	4
執筆者一覧	8

第1章 インプラント治療の現状と課題 9

はじめに	10
1 インプラント治療とは	12
1 補綴物の種類	12
2 支台としてのインプラント	14
3 オッセオインテグレーションの獲得と周囲組織の健康維持	15
4 インプラント治療の長所と短所	15
2 インプラント治療の歴史と現在	16
1 インプラント前史	16
2 オッセオインテグレーションが普及の起爆剤	17
3 優れた療法にも、伴う危険性を熟知すべき	19

第2章 インプラント治療に求められる 安全・安心

21

1	医療安全リスクの分析・検証・対策	22
1	医療事故防止と組織的なリスク管理の必要性	22
2	医療従事者が遭遇するリスクの予防と対処	24
1	医療安全管理の基本	24
2	ヒューマンエラーとは	27
	医療安全に関する用語	28
3	安全な医療を提供するために	30
4	医療事故要因分類と対策立案の手法	32
5	日頃の心がけと準備・点検	34
6	ヒヤリ・ハット、アクシデントを発生させないための患者対応	37
7	医療事故発生時の心得	40
8	医療事故発生時の対応	41
3	インプラント治療におけるインシデント、アクシデント	43
1	インプラントの病態	43
2	インプラントの医療事故	45
4	歯科医療機関に対する第三者評価活動の現状	48
1	医療機関に対する第三者評価活動	48
2	歯科医療情報推進機構（IDI）の理念・目的・活動	49
3	医療機関の第三者評価活動の意義	49

5	医療法改正と歯科医療安全の体制整備	51
1	第5次医療法改正で全医療機関に義務づけ	51
2	歯科医療安全と歯科外来診療環境体制加算	53
3	歯科医師に課せられた社会的責任	55
4	医療事故関連の行政処分と問われる民事責任、刑事責任	56
5	歯科医療安全と感染症予防法	63
6	歯科医療安全と廃棄物処理法	66
6	インプラント治療と混合診療	70
1	混合診療について	70
2	日本医師会・日本歯科医師会の主張	71
3	歯科における混合診療問題	72
4	歯科インプラントと混合診療問題	73
7	インプラントに関する最近の報道	74
8	インプラント治療における医療訴訟の事例	78

第3章 安全・安心な アシストワークの実際

85

1	チームアプローチとインフォームドコンセント	86
1	インプラント治療におけるチームアプローチ	86
2	正しいインフォームドコンセント	88

2	治療契約と治療計画の作成	91
1	診断と治療契約	91
2	インプラント治療の流れ	92
3	治療計画の立案	93
3	術前準備と感染管理	94
1	口腔内環境の術前改善	94
2	手術前日までの機材の準備	95
3	正しい滅菌操作とは	97
4	手術当日の準備	98
4	インプラント埋入とアシストワーク	114
1	術前処置	114
2	一次手術のアシストワーク	115
3	術後の器具洗浄・滅菌と廃棄物処理	121
4	術後管理	133
5	二次手術のアシストワーク	135
5	メンテナンスと成功率	138
	索引	141
	資料	145
	資料1 インプラント・セーフティマークとは	
	資料2 インプラント安心基準マネジャーとは	

[執筆者一覧]

第1章

小宮山彌太郎 ブローネマルク・オッセオインテグレーション・センター院長／東京歯科大学臨床教授
 特定非営利活動法人 歯科医療情報推進機構

第2章

井上 孝 東京歯科大学大学院歯学研究科教授

新原英嗣 日本大学歯学部特任教授

特定非営利活動法人 歯科医療情報推進機構

第3章

小宮山彌太郎 ブローネマルク・オッセオインテグレーション・センター院長／東京歯科大学臨床教授

山口千緒里 ブローネマルク・オッセオインテグレーション・センター歯科衛生士／第2種減菌技士

荒井昌海 エムズ歯科クリニック理事長

鈴木仙一 ライオンインプラントセンター理事長、日本大学松戸歯学部臨床教授、

ドイツ国際インプラントアカデミー准教授、国際口腔インプラント学会認定医・指導医

飯山浩靖 いいやま歯科医院院長、国際口腔インプラント学会認定医・指導医

特定非営利活動法人 歯科医療情報推進機構

[監修]

河津 寛 河津歯科医院院長、明海大学歯学部臨床教授・生涯研修部長

特定非営利活動法人 歯科医療情報推進機構

第1章

インプラント治療の 現状と課題

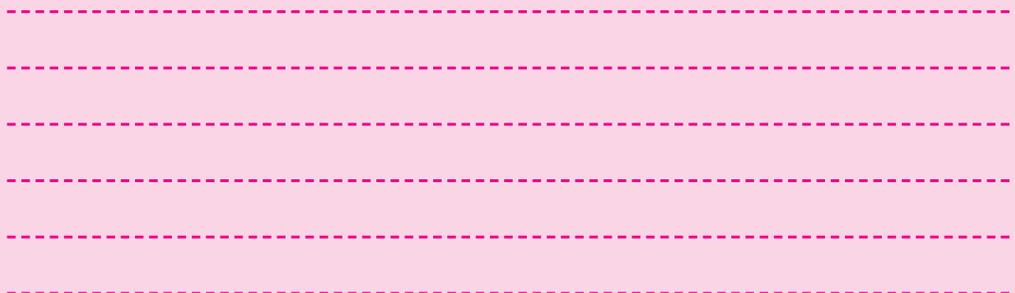
はじめに

わが国では、1960年代初頭からインプラント治療が行われるようになりました。1972年には臨床家が集まり、日本歯科インプラント学会と日本デンタルインプラント研究学会が設立されるなど、歯科補綴領域での普及が図られてきました。

平成21年度の厚生労働科学研究「歯科疾患等の需要予測および患者等の需要に基づく適正な歯科医師数に関する研究（研究代表者 安藤雄一）」において、インプラントの普及状況について調査が行われています。わが国におけるインプラントの装着状況に関しては、2005（平成17）年度に行われた歯科疾患実態調査の結果が基になっており、この研究による分析の結果、35歳以上の約100人に1人がインプラント装着者となっていました。歯科疾患実態調査は6年ごとに実施されており、平成23年度に実施が予定される本調査の結果を詳細に分析すれば、インプラント装着者の推移が判明しますので、結果が待たれるところです。

また、医療施設静態調査の2002（平成14）年度と2005（平成17）年度の結果を比較すると、インプラントを実施している歯科診療所が増加していることがわかりました。直近の調査は2008（平成20）年で、20%以上の歯科診療所がインプラント手術を実施しているとの結果が現れています。

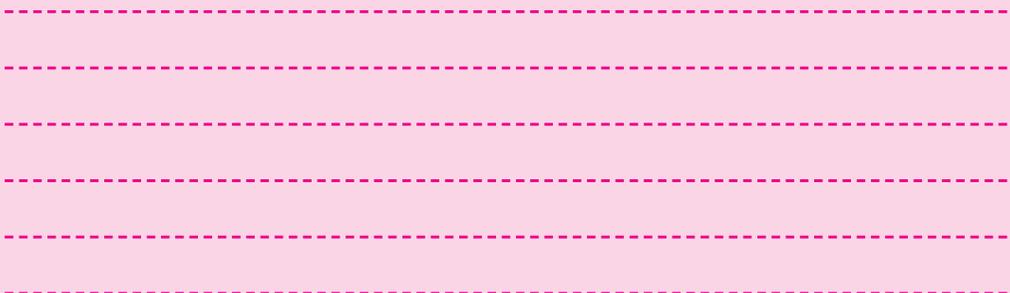
これらから、将来的にはインプラントによる補綴治療はさらに広く行われるようになると想像できます。



最近、愛知県豊橋市の歯科医院におけるインプラントに関する報道がなされています。これは、ある週刊誌では「一度患者に埋入したフィクスチャーが脱落し、その脱落したフィクスチャーを消毒して他の患者に使用している可能性がある」と報じられたものです。豊橋保健所の立ち入り調査では、いわゆる「使い回し」の確たる証拠をつかむには至りませんでした。確かめられた事実としては、本来、開封後すぐに「単回使用」されるべきフィクスチャーが、自前の滅菌バッグ様の容器に入っていたということです。これでは院内感染対策上、非常に不適切であるといわざるを得ません。この案件以外にも、上部構造の破損・脱落、フィクスチャー埋入時の穿孔や、穿孔に伴う出血や軟組織の損傷、フィクスチャーの脱落・破損などの偶発症も報じられています。

安全・安心なインプラント治療を行うために、歯科医師の知識・技術の向上や設備機器の保守管理といった「現場での対応」、より予知性の高い治療法として確立するために必要な「学術面での対応」、学生の頃から必要十分な知識・技術を授ける「教育面での対応」が必要であると考えられています。

本書は、すでに歯科医療に従事し、インプラント治療を施行している歯科医師、インプラント治療を施行する歯科医療機関に勤務する看護師・歯科衛生士、歯科助手、医療事務従事者を対象に、「現場での対応」に焦点を絞り、安全・安心なインプラント治療に必要な不可欠な知識と管理手法について解説いたします。



し かいりょうじゅうじしや
歯科医療従事者のための
インプラント安心基準マネジャー
にんてい きほん
認定基本テキスト

2012年1月25日 第1版第1刷発行

定価（本体 3,800円＋税）
〈検印省略〉

監 修 河津 寛、特定非営利活動法人歯科医療情報推進機構
発 行 株式会社 自由工房
〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-27-5 大興ビル203
TEL/03-3865-5851 FAX/03-3865-5869
<http://www.jiyukobo.co.jp>
装 丁 Drip Design
印 刷 株式会社 新晃社

本書の一部または全部を許可なく複写・複製することは著作権・出版権の侵害になりますのでご注意ください。
©2012 Printed in Japan ISBN978-4-901450-13-3